

令和6年度

徳島市城西中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の定着を図るわかりやすい授業の実践
- 教育DXを取り入れた主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践
- 家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
権藤 貴士	校長 大栗一敏 教頭 中山 英治 湯浅 美代 教務主任 石井 寧 進学主任 川尻 隆之 1年主任 藤原 博美 2年主任 森大 樹 3年主任 小西 智美 関係者 オオヤマ 駿

校長

大栗 一敏

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観や教職員の情報共有、研修の活用など、教育活動の様々な機会を捉え、取組み状況の把握に努める。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な問題は解くことができ、家庭でも自主学習を行い、知識・技能を習得しようとする生徒が多い。 ●学習したことの定着や家庭学習の取組みが不十分な生徒もいる。 ●習得した知識・技能を活用することが難しい。	・自主学習の内容を工夫した家庭学習に取り組むことができる。 ・基本的な知識・技能が定着し、既習の知識・技能を他の学習や実生活で活用することができる。	・反復学習を徹底した家庭学習の充実を図る。 ・教材の工夫やタブレットのミライシード、Metamoji Classroom等を活用し、個別最適化された「わかる授業」の実践に努める。 ・単元ごとに知識・技能を確認する場面を設定し、定着度を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いの場面で自分の考えを伝え合ったり、既習内容をもとにして考えたりすることができる生徒が多い。 ●自分の考えを論理立てたり、順序立てたりして表現することに苦手意識をもっている生徒が多い。	・家庭学習等で学んだことを活用して、発展的な問題に自主的に取り組み、思考力・判断力を高めることができる。 ・自分の考えを論理的にまとめたり、相手に分かりやすく順序立てて伝える力を身につけることができる。	・発展的な問題を取り入れることで、家庭学習の充実を図る。 ・タブレットやワークシート、ノートを活用し、自分の考えを表現し、思考の過程を見える化させる。 ・学習形態や学習方法を工夫し、自分の考えを表現する場を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて、主体的に取り組もうとする生徒が少ない。 ●発展や活用の場面で、粘り強く取り組むことができる生徒が少ない。	・主体的に授業に参加し、自らの課題に粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習状況を把握し、課題解決に向けて調整しながら主体的に学習を進めることができる。	・めあてや学習の流れを提示する等、見通しを持たせ、主体的に取り組むことができる工夫をする。 ・単元の振り返りやポートフォリオを活用し、自分の学習状況を把握する場を積極的に取り入れる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

